



# 『We 鏡中』

令和8年6月14日

## ☆彡「栄光への石段」

皆さんは千栗(ちりく)八幡宮という神社を知っていますか？

佐賀県の東側、みやき町にある神社です。右の写真が拝殿です。

有名なのは粥に生えたカビで占う粥祭が毎年地元マスコミに取り上げられています。

この千栗(ちりく)八幡宮の鳥居の足元に一つの石碑があります。この神社の近くに柔道の金メダリスト古賀稔彦さんの実家があり、146 段の石段を毎朝 7 往復して鍛えていた古賀さんを称えた石碑です。

そこに刻まれている言葉は…。

むかし 一人の少年がいた  
少年は くる日も くる日も  
この石段を かけ登り かけ下った  
そして 少年は この石段もわが師と仰ぎ  
心とからだを鍛える場とした  
長じて 少年は 自らの夢をはたし  
バルセロナとアトランタの両オリンピックで  
栄えある金と銀のメダルを受けた  
少年の名は 古賀稔彦 その人である

平成 8 年 1 2 月 吉日

オリンピック日本柔道代表

古賀稔彦選手 後援会 会長 岡村 又一  
他 一同



私が一番魅力に感じる場所は、「この石段もわが師と仰ぎ…」です。石段すら師と仰いで努力すること(できること)の素晴らしさに、私は最も心打たれます。私の身の回りにも、このような「栄光への石段」はたくさんあるはずなのですが、私はそれを「栄光への石段」することができずに過ごしています。

私の先輩の先生は、トイレに行かれた時に、必ずトイレのスリッパをかがんで手で揃えておられました。私が「何故、手で揃えられるのですか？」と聴くと、「自分で決めたことだから」とおっしゃいました。中学生の頃からということでしたから、40 年以上続けておられました。

この先生にとって、トイレのスリッパをそろえることが「栄光への石段」になっておられたのだと、私は思います。私は自分にとっての「栄光への石段」を生かし切れていないので、これからはと…。

生徒の皆さんにも「栄光への石段」は身の回りにあると思います。それが「栄光への石段」になるかどうかは自分次第です。「栄光への石段」になるよう、努力してほしいと思っています。

